

SPAN の活動紹介

SPAN が提供する資格取得支援

SPAN では、資格の取得を目指す視覚障害者のために以下の支援を行っています。

*日商 PC 検定受験対策コース

日商 PC 検定 2 級・3 級の取得を目指す方のための受験対策コースです。また、対策コースを受講した方は SPAN の教室で受験することできます。これまでに 40 名以上の方がこのコースで学んで資格を取得されました。

<https://span.jp/certification/#con01>

*資格試験に関する情報提供

認定 NPO 法人タートルと共同で、資格試験に関するアンケートを行い、結果を以下に掲載しています。

<https://span.jp/useful/#con05>

また、2026 年度には、同じくタートルと共同で、実際に資格を取得された方の体験記を以下のページで公開する予定です。

<https://span.jp/certification/#con02>

SPAN は、今後も視覚障害者の資格取得の可能性を広げる活動を続けていきます。

SPAN では、職業スキルの向上を目指す方はもちろん、ICT スキルを高めたい方、また支援をする方のために以下の講座や訓練、支援を実施しています。

・個々のニーズに応じてマンツーマンで学ぶ個人対象講座

・数名で同じテーマを学ぶグループ講座

・テーマを決めて実施するワンポイント講座

・通信アプリ Zoom などを利用した遠隔講座(個人・グループ・団体)

・就労中の視覚障害者を対象とした在職者訓練、就労支援事業

・就労する視覚障害者とその職場を支援するジョブコーチ、雇用管理サポーター

・視覚障害者を支援する方のためのサポーター養成講座



SPAN の教室

「レインボープラザ」の愛称で呼ばれ明るくコンパクトな教室です

ご寄付のお願い

私達は視覚障害者が ICT を使いこなすことにより、自立し社会参加、就労していけるよう活動していますが、公的な補助を受けず自主運営している団体です。皆様からのご寄付が活動を維持するための貴重な財源となっています。この活動に共感していただけの方のご支援をお願い致します。

振込先

郵便振替口座 00110-4-183315 スパン寄付金口

銀行等からの振込銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店

預金種目：当座 口座番号：0183315



2026 年 8 月 発行

特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク(SPAN)

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-7-13 エスパース田町 ANNEX701

電話&ファクシミリ 03-6435-1614

E-mail office@span.jp

URL <https://span.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/span.jp>

X https://twitter.com/npo_span



2026

～ 視覚障害者の PC・ICT 利用を進めるための掛け橋となることを目指して ～
ICT で視覚障害者の社会参加と就労を支援

広報誌 第12号
2026 年 8 月発行

SPAN は
視覚障害者の S
パソコンの P
アシストの A
ネットワークの N の略

視覚障害者の就労を支える 3 つの力

東京視覚障害者生活支援センター 石川 充英

視覚障害のある方が就職し、業務を続けていくためには「業務遂行力」「業務企画力」「業務工夫力」という 3 つの力が欠かせないと考えています。この 3 つの力を、当事者と企業担当者、双方の視点を交えながら考えてみます。

業務遂行力とは、当事者にとってはパソコン操作や支援機器を使いこなす力であり、企業担当者にとっては合理的配慮として支援機器を用意し、基幹ソフトのアクセシビリティを保障することです。

業務企画力とは、当事者が自らの担当を超えて他部署にも目を向け、企業担当者がそれを後押ししながら、部署を横断・縦断する業務を組み立て、仕事の幅を広げていく力です。

業務工夫力とは、当事者が様々な方法に挑戦して業務の効率化を図り、企業担当者がわずかな配慮で障壁を取り除くなど、双方の工夫によって働きやすさを築く力です。

当事者の努力と工夫、企業担当者の新しい提案の受け入れ、そして支援機関のサポート。この三者が密接に連携することで、3 つの力は初めて最大限に発揮され、業務内容の展望が開けると考えています。



SPAN の活動理念

SPAN は、1999 年 11 月に発足し、2001 年に NPO 法人の認証を受け、視覚障害者のパソコンや ICT(情報通信技術)の利用が快適・積極的に進むよう、点在する組織や情報を繋ぎ合わせることを目指す有志によって活動を続けています。

SPAN の特徴と活動

特徴	活動		
視覚障害者と晴眼者が同じ立場で活動している	資格取得を含む PC 等 ICT ツールの講座開催と普及	サポートスタッフへの講習会の開催	社会参加と就労を支援
初級講座から資格取得、職業訓練まで幅広いニーズに応えられる			
Microsoft Office のマニュアルなど豊富なテキストを制作	PC 等 ICT ツールの活用促進のための情報収集と提供	ハード/ソフトウェアの評価及び提言	個人や団体、行政との情報交換
通信アプリを利用した遠隔講座など多様な講習形態に対応			
パソコンやスマートフォン・タブレット PC など最新の技術にチャレンジ	他の関係団体の設立及び運営支援	機関紙の発行	企業・行政・団体からの教育・調査研究の受託

これまでの活動 2025 年 1 月～2026 年 6 月活動実績

講座・職業訓練等		イベント等	
遠隔ワンポイント講座	Google アプリ、Microsoft Officeなどをテーマに9回実施	第33回視覚障害リハビリテーション研究発表大会	在職者訓練をテーマとしたポスター発表で参加
個人対象講座	受講する方のニーズに応じた内容で対面により7回実施	ロービジョンセミナー	パソコン相談で出席
遠隔個人講座	受講する方のニーズに応じた内容で17回実施	視覚障害者就労支援機関の情報交換会	資格取得をテーマに発表
日商 PC 検定受験対策コース	遠隔で11名に対して実施	資格試験に関するイベント	「受けられる資格から受けたい資格へ」をテーマに実施 参加者約120名
無償での遠隔就労PCサポート	受講者のニーズに合わせて2名に対して実施	就労支援者情報交換会	就労支援者を対象に実施 参加者約150名
タブレットサロン	iPhone、iPadの情報交換の場として遠隔で12回実施	幹部職員用ビデオ収録	内閣官房からの委託により実施
在職者訓練	在職中の視覚障害者への職業訓練を対面と遠隔で8社8名に申し実施	企業が主催する川島成道ニューイヤーコンサート	iPhoneによるプログラム読み上げデモと弱視体験を会場で実施
ジョブコーチ・障害者雇用管理サポーター支援	在職中の視覚障害者への就労支援を約250回実施		
就労支援事業	在籍する視覚障害者への職業研修を対面と遠隔で6社6名に対し実施		
自治体、企業・団体からの委託によるパソコンやタブレットなどの講座を対面と遠隔で11回実施			

これからの活動 2026 年活動予定 (7 月～12 月)

講座・職業訓練等		イベント等	
遠隔ワンポイント講座	Microsoft Office、Google アプリなどをテーマに実施	資格試験に関する体験をWebで公開	
個人講座、グループ講座	受講者からの依頼により、オーダーメイドの講座を対面と遠隔で実施	サイトワールド(就労関係の発表で参加)	
日商 PC 検定受験対策コース	日商 PC 検定の受験を目指す方を対象に遠隔で実施	第34回視覚障害リハビリテーション研究発表大会に参加	
タブレットサロン	iPhone、iPadの情報交換の場として遠隔で実施	視覚障害者就労支援機関の情報交換会に参加	
学生支援事業	視覚障害のある学生のICTスキルを高めるための支援を実施		
在職者訓練	在職中の視覚障害者への職業訓練を対面と遠隔で実施		
ジョブコーチ・雇用管理サポーター支援	在職中の視覚障害者への就労支援を職場を訪問して実施		
就労支援事業	企業・行政機関・団体等を対象に視覚障害のある社員・職員への研修を実施		
無償での遠隔 PC サポート	公的な就労支援が受けられない視覚障害者を対象に実施		

2025 年 8 月
第 33 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会
ポスター発表の様子

インタビュー

推し活は最高!

田中富子さん(50代 女性 弱視)



Q. SPANを知ったきっかけは?

A. 視力の低下によりパソコンの画面が見づらくなり、視覚障害者の就労を支援する会(タートルの会)に相談したところ、SPANを紹介してもらいました。

Q. SPANではどの講座を受講されましたか?

A. 遠隔個人講座を受講しました。PCトーカーを用いてのメールとパワーポイントの基本操作を学びました。PDFの閲覧はAIの活用を勧められ、Copilotを体験しました。事前に講師の先生と講座プログラムについて話し合うことができ、希望を取り上げてもらえたので、とても満足した内容となりました。

Q. 受講しからの感想は?

A. マウスから音声操作への切り替えに不安を感じていましたが、慣れればなんとかなることがわかりました。講座終了後に一人で操作してみると思うようにいかないこともありましたが、必要に迫られて使っているうちに、見えない部分を補うことができるようになりました。もっと早くに受けておけば心の余裕ができたと思う反面、今でよかったのかもと思います。仕事中にポップアップが表示されるとちょっと慌ててしまいます。

Q. 休日はどのようなことを楽しんでいますか?

A. エレファントカシマシの宮本浩次さんの推し活をしています。

Q. 具体的には?

A. 同行援護を利用し、観光を兼ねて福岡、高松、大阪、神戸、東京など、ライブに足を運んでいます。高松ではうどんの食べ歩きをし、こんびらさんに参拝しました。北海道の音楽フェスでは、スーパカレーなどフェス飯を堪能しました。

Q. 音楽フェスにも行かれたんですか?

A. 多くのフェスでは、障害者用の優先席が設置されていることもあるので、疲れたら座ることもできてのんびり自分のペースで楽しめますよ。

Q. SPANの活動についてのご意見をお聞かせください。

A. PC-Talkerを用いたパソコン講座は少ないのでとても貴重だと思います。ただ、職場のパソコンにPC-Talkerを入れたら動きが遅くなり、今までできていた作業ができなくなっていました。事前にPC-Talkerを導入するパソコンのスペックについてのアドバイスをいただけたといいなと思いました。

Q. 読者のみなさんへのメッセージをお願いします。

A. 目が見えなくなって一人で悩んでいる人がいたら、オンラインの「チャレンジド・ヨガ」などに参加してみてもどうでしょうか?できないと思っていたことも、トライしてみれば、案外できるんだと希望を持つことができます。目が見えないからといって、好きなことを諦めずに明るくドーンと、生きていきましょ!私は熱くてまっすぐでかっこのいい宮本浩次さんを推し続けます!

聞き手:平川純



聞き手:萱野桃子

スクリーンリーダーとの出会いが、仕事の可能性を広げてくれました

土井 健太郎さん(59歳 男性 網膜色素変性症)



Q. SPANを知ったきっかけは?

A. 子どもの頃から網膜色素変性症があり、最近になって急激に見え方が悪くなってきました。仕事では一日8時間ほどパソコンを使うため、目を酷使して毎日のように頭痛に悩まされていました。画面を見る時間を減らすためにスクリーンリーダーを使おうと思い、インターネットでSPANを知りました。四谷の職業訓練センターでも紹介を受け、仕事を続けながらオンラインで受講できることが決め手になりました。

Q. SPANではどのような講座を受講されましたか?

A. 遠隔個人講座でPC-Talkerの使い方を学びました。週に1回、半日程度の受講を約4か月続け、会社とも相談しながら仕事と両立してレインボープラザでの講義は数回のみで、ほとんどが遠隔で実施されたため、業務との両立が非常に効率的でした。仕事では主にMicrosoft Officeを使用するため、業務で必要な操作を中心に教えていただきました。受講前からPC-Talkerを導入していましたが、まったく使いこなせていませんでした。講座では基礎から丁寧に教えていただいたおかげで、仕事に必要な最低限の操作はできるようになりました。

Q. 受講しからの感想を教えてください。

A. 今でも視力は使っていますが、以前は「目で見る」がほとんどだったのが、今ではスクリーンリーダーも併用できるようになりました。割合でいうと、まだ目を使う方が多いですが、音声を活用することで目への負担が大きく減り、毎日悩まされていた頭痛も劇的に少なくなりました。また、PC-Talkerの基礎を学んだことで、「カーソルを読みたい場所に移動すればいい」という考え方を知りました。そのおかげで、現在はNVDAにも挑戦してみています。SPANで基礎を教えていただいたからこそ、次のステップにも前向きに取り組んでいると感じています。

Q. 休日はどのように過ごされていますか?

A. 毎日仕事に追われていますが、休日は妻と旅行に出かけることもあります。温泉旅行が好きで、先日沖縄へ行ってきました。旅行先で地元のお酒や食事を楽しんでいます。コロナ禍前は海外旅行にもよく行っていました。また、アニメも好きです。音声ガイドが付いている作品はまだ少ないですが、それでも内容を想像しながら楽しんでいます。

Q. SPANの活動について、ご意見をお聞かせください。

A. 視覚障害があると情報へのアクセスが難しく、就職や仕事の継続にも苦労する方が多くいます。そうした中で、仕事を辞めることなく受講できるSPANの講座にはとても大きな意味があると思います。今回、約4か月かけて学ぶことができましたが、実際に仕事に戻ると新たな疑問も出てきます。講座終了後にも相談できるようなアフターフォローの機会があると、さらに安心して学び続けられるのではないかと思います。

Q. 読者のみなさんへメッセージをお願いします。

A. 目が悪くなる、もうできないかと思ってしまうがちです。でも、SPANのような支援を利用して少しずつスキルを身につけることで、自分の可能性は大きく広がります。最初の一歩を踏み出すハードルは高く感じますが、簡単なことも簡単にはできません。しかし、その壁を乗り越えたと、自分が思っていた以上に仕事の幅が広がり、生活の質も向上します。私は病気の患者会の代表をしていますが、それでもSPANのことは詳しく知りませんでした。困ったときは一人で悩まず、支援機関に相談してみてください。私自身も、SPANに出会わなければPC-Talkerでつまづいたままだったと思います。この広報誌が、同じように悩んでいる方の手に届き、「自分にもできるかもしれない」と思えるきっかけになれば嬉しいです。これからも新しいことに挑戦しながら、自分らしい生活を続けていきたいと思います。